

製品名: GCG ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11346**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	GCG
別名	GCG; Glucagon
遺伝子 ID	2641.0
SwissProt ID	P01275
免疫原	抗血清はヒトグルカゴン由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 61-110

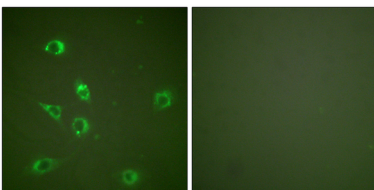
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、実際にはプレプロタンパク質であり、4つの異なる成熟ペプチドに切断されます。これらのペプチドの1つであるグルカゴンは、グリコーゲン分解と糖新生を刺激することでインスリンの血糖降下作用を打ち消す膵臓

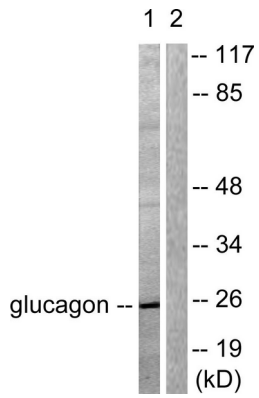
ホルモンです。グルカゴンは、シグナル伝達経路によって細胞増殖を制御する特定の G タンパク質結合受容体のリガンドです。他の 2 つのペプチドは腸管内分泌細胞から分泌され、異なるメカニズムで栄養素の吸収を促進します。最後に、4 つ目のペプチドは活性型エンテログルカゴンであるグリセンチンに類似しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],function:グリセンチンは胃酸分泌と胃幽門十二指腸の活動を調節する可能性があります。また、生後初期の腸粘膜の成長に重要な役割を果たす可能性があります。、function:GLP-1 は、グルコース依存性インスリン放出の強力な刺激因子です。胃の運動と血漿グルカゴン濃度の抑制に重要な役割を果たします。インスリンの作用とは独立して、満腹感の抑制と末梢組織でのブドウ糖処理の刺激に関与している可能性があります。腸上皮に対して成長促進活性があります。また、LH、TSH、CRH、オキシトシン、およびバソプレシン分泌に対する効果を介して視床下部下垂体系（HPA）を制御する可能性があります。膵島新生および膵β細胞増殖の刺激により膵島重量が増加します。β細胞のアポトーシスを阻害します。機能: GLP-2 は腸の成長を刺激し、小腸の絨毛の高さを上方制御し、同時に陰窩細胞の増殖の増加と腸管上皮細胞のアポトーシスの減少を伴います。胃から結腸までの消化管は、GLP-2 作用の主な標的ですが、栄養素の恒常性維持に重要な役割を果たし、胃腸機能の強化を通じて栄養素の同化を促進するとともに、栄養素の排出を増加させます。腸のグルコース輸送を刺激し、粘膜透過性を低下させます。機能: グルカゴンは、グルコース代謝と恒常性維持に重要な役割を果たします。糖新生を増加させ、解糖を減少させることで血糖値を調節します。インスリンの対抗調節ホルモンは、インスリン誘発性低血糖に反応して血漿グルコースレベルを上昇させます。糖尿病における高血糖状態の開始と維持に重要な役割を果たします。機能: オキシントモジュリンは食物摂取量を大幅に減らします。ヒトの胃内容排出を阻害します。胃内容排出の抑制は胃膨張の増加につながる可能性があり、満腹感を引き起こして満腹感に寄与する可能性があります。誘導: グルカゴンの放出は低血糖によって刺激され、高血糖、インスリン、およびソマトスタチンによって阻害されます。GLP-1 と GLP-2 は、栄養素の摂取に応じて誘導されます。、その他: グルカゴン拮抗薬は、His-53 と Phe-58 を欠いています。この拮抗薬は、生体内で血糖値を低下させるために効果的に利用されています。、オンライン情報: イーライリリー社のグルカゴン製品に関する臨床情報,医薬品: グルカゴン（イーライリリー社）およびグルカゲン、またはグルカゴンノボノルディスク（ノボノルディスク社）の名称で販売されています。インスリン依存型糖尿病患者の重度の低血糖の治療に使用されます。、PTM: プログルカゴンは、膵臓 A 細胞および腸管 L 細胞において、組織特異的な様式で翻訳後処理されます。膵臓 A 細胞において、主要な生理活性ホルモンは PCSK2/PC2 によって切断されたグルカゴンです。腸管 L 細胞において、PCSK1/PC1 は GLP-1、GLP-2、グリセンチン、オキシントモジュリンを遊離させる。GLP-1 は腸管 L 細胞における翻訳後プロセッシングによって N 末端が切断され、GLP-1(7-37)GLP-1(7-36)アミドとなる。C 末端のアミド化は、GLP-1 の代謝にも膵内分泌系への作用にも重要ではない。、類似性: グルカゴンファミリーに属する。、組織特異性: グルカゴンはランゲルハンス島 A 細胞から分泌される。GLP-1、GLP-2、オキシントモジュリン、グリセンチンは、消化管全体の腸内分泌細胞から分泌される。GLP1 と GLP2 は、脳内の特定のニューロンからも分泌される。、

研究分野

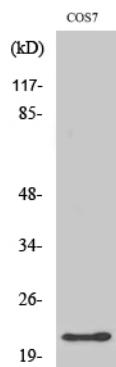
画像データ



グルカゴン抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



グルカゴン抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



GCG ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析